校友時報

平成27年3月2日
編集人 兼発行人
秋田県能代市高隆2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 ㈱八郎潟印刷
写真提供 佐藤写真館

ご卒業 おめでとうございます

気高く 強く しなやかに

校長へのインタビュー

卒業生の皆さん、受験勉強本当にお疲れ様でした。そしてご卒業おめでとうございます。大きな不安を抱えながらも、自分の夢の実現のために勉学に励まなければならなかった今年度はとても大変だったと思います。そんな卒業生の皆さんを二年間見守ってきた校長先生に、お話をうかがいました。

校長 一関 雅裕

卒業生の最初の印象について

礼儀正しく、素直で優しい生徒たちだと思った。新任式で壇上から見た時、整然と並び態度も立派で素晴らしいと思った。

卒業生に関する印象的なエピソード

沢山あるのだが、一つ挙げるとすれば十里強歩だ。ある生徒が、本当は走りたかったのだが、膝を痛め走ることができなかった。だがどうしても何かに関わりたいと考え、何とかスターターをさせてほしいとやって来た。私は喜んでスターターを彼に任せた。そのように「やりたい」という思いを言える、行動に移せるのが本当の能高生だ。

卒業生へのはなむけの言葉

「気高く 強く しなやかに」

「気高く」というのは、どんなに苦しい場面でも胸を張れという意味だ。苦しい場面でこそ胸を張るべきだ。これはなかなか難しい。だが苦しくても誇りをもって胸を張れ。

「強く」については、こういう言葉がある。「優しくなければ生きていく価値はない 強くなければ優しくなれない」 人生を歩むとは苦しみ（重荷）を背負って皆、同じ方向に歩むことである。その時に重荷を皆が背負っている。誰かがその重荷を堪えきれずに下ろした時、その人の分を担い、一緒に歩く。これが優しさだ。自分が苦しくても、誰かの重荷を背負ってやる強さがなければ、優しくはなれない。

最後の「しなやかに」。長谷川穂積という天才ボクサーがいる。彼のくり出すパンチはどこまでもしなやかで、試合はこどもしなやかで、そのものである。柔らかい体、心。それが本当の強さだ。心も体も強さを求めるのであれば、しなやかさを求めよう。誇り高く、強く優しく、そのためにしなやかに生きようというメッセージを送りたい。そうやって生きていこう。

在校生に向けてのメッセージ

「自分の責任で、自分を成長させようとする覚悟を持て」

高校生なのだから自分の成長には自分で責任を持つことだ。全部自分が工夫すれば身につくし、力もつく。人のせいにすると成長が止まってしまう。欲しいなら自分で獲りに行けばいい。自分が成績を上げたいと思ったら、自分でやるのだ。その覚悟が持てたら、自信度が何倍になるはずだ。待っているから、何も与えられない」と不満ばかりになる。自分で獲りに行く覚悟をきめれば、何でもできるということに気づくだろう。

数学の魅力

数学科の先生方から

苦手意識を持たれることも多い数学だが、少しでも数学の魅力を伝えられるよう、数学科の日景聡先生と、堀内大介先生にお話をうかがった、先生方の原点についても明かしていきたい。

――数学のどんな点に惹かれましたか？

日景先生（以下・日）「やっぱり数式の美しさ」

堀内先生（以下・堀）「（笑）数式の美しさ!?」

日「そんな感じだなあ。本当は俺、物理だったんだよ。物理化学だったけど、数式の本格的なところで、『この式は何を表してるのかな』って思った時に、数学の方がいいんじゃないかって思って」

堀「俺は高校の時の先生が面白そうにやっていたのが一番大きな理由で。あとは他の教科より分かっていたということだなあ」

――数学ができる人とできない人の違いは何ですか？

堀「うーん。『できる人』っていうのはどんな感じ？」

日「（笑）」

――であれば、数学で点数が取れる人はどんな人ですか？

日「数学が好きな人と点数取れる人は別のような気がするんだよな。俺、数学好きだけど、点数取れないもんなあ。堀内先生、数学嫌いだけど点数取れるタイプなんだよな」

堀「（笑）」

日「でも生徒を見ていれば、考えるのが好きだとか、クイズが好きだとか、そういう人が数学が得意というか、よく勉強してるって感じはするなあ」

――その他に勉強していると感じる生徒はどんな生徒ですか？

堀「（答案で）無駄なことを一切書かない生徒の解答を見ると、こいつできるなって感じる」

日「ノート（の計算過程）がぐちゃぐちゃになっていると、こいつ考えてるなって思う」

数学科 堀内 大介 先生

――数学が好きな人の理想の職場はありますか？

堀「理想の職場!?これ教員って言った方がいいのかな（笑）」

日「（笑）俺はプログラマーとかエンジニアとかが、数学を現実世界で応用している現場じゃないかと思うなあ」

堀「とことん突き詰めるなら、大学の教員が良いかな。自分の専門分野をやっていけるからね。まあ、（数学は）紙とペンがあればどこでもできるからなあ」

日「（お二人の間を指でなぞって）ここ、分かれるんだよ」

堀「え!?（笑）」

日「俺は物をつくる派なんだよ。どっちかっていうと」

堀「まあ、手段の違いですよね（笑）」

日「まあな（笑）」

――数学の苦手意識をどうしたら変えられますか？

堀「授業でもできるだけ考えてやらないと解けない問題とか質問を考えるようにはしているんだけど、いかんせん時間が足りないんだよなあ。やっぱり普段家で考えたりする場面が多い人は、あまり苦手意識を持たないで問題に取り組める。でもそうでない人は手が止まっちゃうと思う」

日「やっぱり努力しまくらなければ駄目だと思う」

堀「『4プロセス』（問題集）がぼろぼろになるくらい、問題を解くときに手が勝手に動くような感じまでやればいいと思う」

数学科 日景 聡 先生

日「堀内先生、そっちのタイプなんだよ」

堀「またこっちとそっちって（笑）」

日「そっちはパッと見てひらめけるタイプなんだよ」

堀「違う違う（笑）」

日「俺は直見て、百叱り出すようなタイプなので、違うんだよ。これ真面目に」

堀「（笑）」

――先生方は世界でまだ解けていない難問などを解いてみたいと思いますか？

堀「うーん」

日「俺はもう教員になっちゃったので、数学の研究もするけど教育の研究もする。だからそういう難問を解く人ではないので、それを解けるような生徒を育てたいですね！（力強く）」

堀「（笑）まあ、年をとっていくとひらめきが出ないんですよ。まだ解けていないものは経験じゃなくてひらめきだと思うので、やっぱり若い人の方が抜群にできるはずなんです。まあ、色んな問題があるのでできるできないは別にして、挑戦する姿は見せたいと思います。ただ生徒たちの方が力はつきやすいので、ぜひ（難問に）挑戦してほしいと思いますね」

二年生の先輩に聞く！

文型 理型 理数科 各コースの特色

二年時のクラス分け。一年生は期待しつつも不安に駆られているのではないだろうか。今回は二年生の先輩からクラスの雰囲気や特色を教えていただき、進級先のイメージを膨らませてもらいたいと考えた。

はじめは文型だ。菜地徳龍さん、木村智穂さんにご協力いただいた。最初の質問は学校行事の雰囲気について。能高祭は「部活動に所属する人が大勢残って準備することはできなかったが、各々が忙しいなりに皆で協力し合い役割分担をしていた」とのこと。体育大会では「体育会系が多いのでノリがよく、応援は特に盛り上がった」そうだ。文型を選んで良かったことは、「数学なら補習が少ない分、一、二年生の復習ができる時間が多く、センター対策が早めにできること」だそうだ。最後に二人から文型に進む一年生へメッセージ。「文型だからといって数学をやらないというわけではないので、数ⅠAの復習をしっかりやって基礎を固めておいて」「やっぱり勉強と部活動の両立を！」とのこと。朝にインタビューを行った際、教室では熱心に勉強している先輩が大勢いた。

次は理型。佐藤偉貴さん、佐藤梢さんにご協力いただいた。同じく学校行事の雰囲気については、「能高祭の準備に関しては、のど自慢などでは盛ぶりあったが、まとまりがあり、結果としてしっかりとしたものができ上がった。また係に関係なく協力し合うことができた」とのこと。昼休みにお邪魔したところ比較的静かに感じられたが、行事の際はとても積極的であるようだ。理型を選んで良かったことは「クラス内は静かで、受験を強く意識している生徒もいてよく勉強していること」。二人にも理型に進む一年生に言葉をいただいた。「理型科目が増えるので、土台となる（理型科目の）基礎を一年生でしっかり復習して、二年生に上がってきてほしい。みんな勉強モードだから、勉強したい人は来たらいいよ！」とのことだった。

最後は理数科だ。児玉健太朗さん、佐藤彩珠さんにご協力いただいた。はじめは甘Rデコ三位という結果だった能高祭の雰囲気について。どうやら放課後に残って作業をしている人数が多かったようだ。またクラス単位での活動について聞いたところ、「課題研究」が挙げられた。これは理数科の大きな特徴の一つであり、今年は二つの班が韓国へ発表に行ったとのこと。また他のクラスと違う特徴として、二人とも「個性的な生徒が多い」と答えてくれた。教室の背面黒板に書き連ねられた円周率がそれを物語っていた。理数科を選んで良かったのは「部活動をしたままレベルの高い人と争えること」「勉強しやすい授業は早い。色々な体験ができること」。最後に「理数科だからといって部活動を辞めなければならないなんてことはない。（ただし）来るなら覚悟しとけ」と、理数科へ進む一年生へのコメントをいただいた。

インタビューを通して感じたのは、各コースの特色は、所属する生徒に顕著に表れているということだ。またそこは同じ意識を持つ仲間が集まっている、過ごしやすい環境だということだ。ぜひ進級するにあたっての疑問解消に役立ててほしい。

能高生の趣味の実態は？

今回、能代高校生の趣味の実態についてのアンケート調査を実施した。様々な趣味に対する理解を深めることが目的だ。一・二年生の皆さんの協力を得て、計四〇四人のデータが集まった。結果について、大きく四つのジャンルでの分析を試みた。

まずは「創作物分野」から見てみよう。読書が一番多く、次はゲームという結果となった。今は携帯用ゲーム機やテレビゲームに代わり、スマートフォン、タブレットのアプリゲームが流行っているようだ。いつでも持ち歩いていて、手軽にできるのが要因だろう。次に多かったのが、映画・アニメ鑑賞だ。映画といえば最近は「アナと雪の女王」が話題となったが、男子生徒にはアクション映画が人気だった。アニメは一昔前とは違い、今は各メディアでも取り上げられ、世間の見る目が変わったとも考えられる。それにより、さらに趣味として考えやすくなったのではないだろうか。次いでPC、テレビ鑑賞、少数だがパズルという回答もあった。

次は「音楽分野」だが、中でも音楽鑑賞の割合が高いことが分かった。勉強の合間に聞いてリフレッシュするといった意見もあった。長い時間勉強するよりも、合間に休憩をはさんだ方が、勉強の効率が上がるのかもしれない。また、実際にギターやピアノを演奏する生徒もいた。

次は「運動分野」だ。「スポーツ観戦」という回答が多く、自分で行うとなると一番は「バスケットボール」という結果だった。「筋トレ」という回答もあり、多種多様なスポーツを趣味としていることがうかがわれた。気になるのは「散歩」という回答だ。「バスケットボール」に惜しくも二票差という結果だったが、なぜこのように多いのだろうか。どうやら「気分転換をしたい」という目的が多いようだ。幸い、能代は自然豊かで、能代公園や風の松原まで足を伸ばせば散歩スポットには事欠かない。高校生には色々な悩みがあるのだから、こういう趣味もいいのかもしれない。

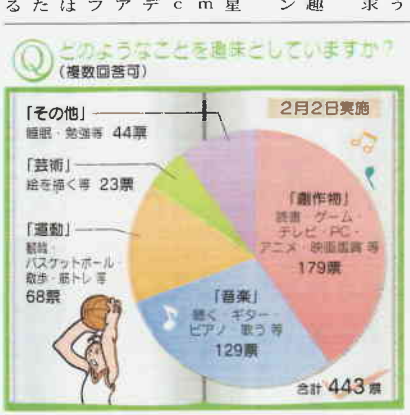
「芸術分野」では「絵を描くこと」が最も多かった。特徴的だったのが、「自分だけの○○」という回答が多かったことだ。「手芸や「生け花」、「書道」、「園芸」も挙げられた。「その他の分野」では、「アクアリウム（観賞魚の飼育）」、「動物とのふれあい」という回答があり、癒しや和みを求めていると感じられた。

最後に、詳しく聞きたい趣味を持つ、二名の生徒にインタビューを行った。

一人目は一年生の佐々木星哉さん。趣味は「MMD（miku miku dance）キャラクターの3Dモデルを操作し、コンピュータアニメーションを作成するソフトウェア」だ。きっかけはYouTubeを見ていた時、「どうやって作っているのだろう」と思い調べたことだ。制作には高スペックなPCが必要だったが、自作用PCを作っていたので環境は整っていた。やりがいは「作業がとても難しく達成感が味わえること」。

二人目は二年生の今井雄太朗さん。父親が音楽に興味があり、中学の時にギターをもらったことが趣味となったきっかけだ。本格的に始めたのは中学の野球部を引退してから。やりがいは「難しい演奏ができるようになること」だ。また「来年度『Geneeeeeeep』というバンドで能高祭に出場します。きっと盛り上がると思うので是非足を運んでください」とのことだった。

二人ともやりがいとして「達成感」を挙げていた。やはり何かを成し遂げることに魅力を感じるのだろう。今回の記事が新しい趣味の発見や、様々な趣味に対する理解を深めるきっかけになれば幸いだ。



来年度の目標！
さらなる高みを目指して

すでに各部活動とも、新チームとして精力的に活動している。今回は各部の部長および代表者に①今年度最も力を入れたこと②来年度の目標の二点について教えていただいた。

体育局

●硬式野球部
（二B　築地　徳龍）
①積極的に打っていく粘りのバッティングをすること。簡単に三振を取られないようにすること。
②「一丸頂点」で甲子園へ。

●軟式野球部
（二C　大山大之亮）
①とにかくバットを振り、スイングスピードを上げたこと。「打」のチームを目標に積極的な全員野球を心がけたこと。
②全国大会出場・和歌山国体出場。

●男子ソフトテニス部
（二D　小川　峻）
①数ある大会の調整に気をつけたこと。
②とにかく全力のプレーを心がける。

●女子ソフトテニス部
（二E　田中　彩希）
①頭で考え、ペアの間できちんと話をしてプレーしたこと。
②インターハイ出場。

●男子バスケットボール部
（二F　児玉健太朗）
①「守る→走る→決める」のスタイルを徹底し、走り込みを頑張ったこと。
②インターハイ出場。

●女子バスケットボール部
（二F　菅原　千景）
①少人数、短い時間の中で力をつけられるよう、練習メニューを工夫したこと。
②県北大会優勝。

●男子バレーボール部
（二C　松岡　清汰）
①声を掛け合って、一生懸命ボールを追ったこと。
②県北大会一位。東北大会出場。

●女子バレーボール部
（二D　畠山　桃子）
①とにかく声を出し、個人の技術とチーム力を磨いたこと。
②県北大会ベスト4。全県大会へつなげる。

●体操部
（二B　塚田　竣）
①各種目の弱点を補うための筋力トレーニングを行ったことや、試合のような形式での練習をしたこと。
②インターハイ予選通過。

●陸上競技部
（二C　袴田　文也）
①自分の目標を設定し、それを達成できるような練習を欠かさず行ったこと。
②各自、自己ベストを出す。

●柔道部
（二A　佐藤　慎）
①ウエイトトレーニングやアジリティートレーニングで、筋力と瞬発力の向上に努めたこと。
②全県大会で勝って、上位大会一勝。

●剣道部
（二D　藤原　佑馬）
①先生との稽古に力を入れたこと。
②東北大会出場。

●卓球部
（二F　佐藤　海志）
①多くの大会に出て、精神面と技術面の強化に力を入れた。個々の弱点を分析し、メニューを考えたこと。
②団体優勝、シングル決勝トーナメント進出。

●ラグビー部
（二F　永塚　穂里）
①走り込み、筋トレなどのフィジカルトレーニングを頑張ったこと。
②県北大会、全県大会優勝。

●山岳部
（二D　伊勢　貴之）
①全県総体での天気図競技を頑張ったこと。
②インターハイ出場。

●空手部
（二D　佐藤　偉貴）
①技の種類を増やすための話し合いをしたこと。試合数をこなして基礎を固めたこと。
②東北大会全員出場。

●水泳部
（二A　藤田　和隆）
①自分の目標を明確にし、それに向かって練習を重ね鍛錬したこと。
②全県での上位入賞及び、東北大会出場。

●応援団
（二E　佐藤　翔里）
①大会の時にいい応援ができるように、声出しや振り付けの練習に力を入れたこと。
②昨年度よりも明るく良い応援ができるようにしたい。

文化局

●文芸部
（二E　佐藤　彩乃）
①俳句、短歌甲子園参加（短歌は全国出場）、部誌制作。
②短歌、俳句甲子園全国大会出場、部誌制作。

●書道部
（二F　田中　麻友）
①全県席書大会、高校美術展。
②各種大会での各自上位入賞。

●科学部
（二F　鎌田　樹）
①自分たちの興味のある実験をすること。
②部活動の勧誘活動。より様々な実験を行うこと。

●美術部
（二E　大越　円香）
①合宿などを取り入れ、制作に時間をかけることができるようにしたこと。
②個人と部活動全体の技術の向上。

●演劇部
（二E　佐藤　楷）
①演技の中の疑問点や矛盾点を全て潰して、嘘のない演技を目指したこと。
②全県大会出場。そして最優秀賞をとり、東北大会出場。

●写真部
（二A　荒木かのん）
①能代カップに記録係として参加するなど、積極的な活動を増やしたこと。
②一人でも多く全国大会に出場する。

●無線部
（二F　新岡　燎汰）
①冬期のランニング等での体力の向上。
②男女共に団体での全国大会への出場。

●放送部
（二E　山下　聡子）
①発声練習と作品作り。
②NHKコンクールの全国大会に出場すること。

●吹奏楽部
（二C　畠山　茜）
①月一の定例会を増やし、自分を振り返り、見つめ直す活動を取り入れたこと。
②全国大会出場。

●囲碁将棋部
（二D　羽澤　星汁）
①プロ棋士からの指導を基に、自分たちの弱点を克服したこと。
②全県団体ベスト3。部員全員決勝トーナメントに進出する。

●茶道部
（二F　石塚　結菜）
①能高祭の呈茶会。
②呈茶会をさらにより良いものにする。

●弁論部
（二F　熊谷あやね）
①大会一週間前には、二十時まで残って議論を練ったこと。
②東北大会優勝。

●新聞部
（二A　佐藤　風雅）
①「校友時報」で興味を引くような記事を書くこと。
②できるだけ多くの新聞を製作する。

●JRC同好会
（二E　藤田　智絵）
①青少年非行防止キャンペーンでのティッシュ配り。
②昨年度以上に積極的に活動する。

●INC同好会
（二F　鎌田　樹）
①ALTのジョン先生との会話を増やしたこと。
②他のALTとの会話を増やす。

Quiz 干支にちなんで♪

Q 夜、寝たいのに眠れない。「早く寝なければいけないのに……」と考えれば考えるほど眠れない。そんな経験はありませんか？そんな時「羊」を数えると眠れると聞いたことがあると思います。なぜ羊を数えると眠りやすくなるか知っていますか？

A 羊は英語だと「SHEEP」、眠るは「SLEEP」です。アメリカでもこの羊を数える作業があり、シープ、シープ、スリープのように似ているからということなのです。この風潮が日本にも伝わって、「羊を数えると眠れる」のです（他にも諸説あるようです）。

編集後記

今回、多くの先生方のお話を聞かせていただきました。本当に貴重な体験でした。（神馬）

初めての新聞制作ということもあって、記事のレイアウトや文を考えるのがとても大変で苦労しました。（宇佐美）

インタビューが多く、メモの取り方、聞き出し方の経験を積むことができました。（佐藤風）

ご協力くださった先生方、生徒の皆さん、本当にありがとうございました。